

石見神楽保存・伝承拠点基本構想策定支援業務

報告書 資料編

1-1. 施設規模及び概算工事費	1
1-1-1. 施設規模の検討	1
1-1-2. 概算工事費	5
1-1-3. 縮小案の検討	7
1-1-4. 類似施設の情報収集	9
1-2. 運営方式・運営体制の検討	25
1-2-1. 事業運営方式に関する参考資料	25
1-2-2. 博物館組織体制に関する参考資料	26
1-3. 浜田郷土資料館との複合化の検討	27

令和 8 年 3 月

株式会社エブリプラン

1-1. 施設規模及び概算工事費

1-1-1. 施設規模の検討

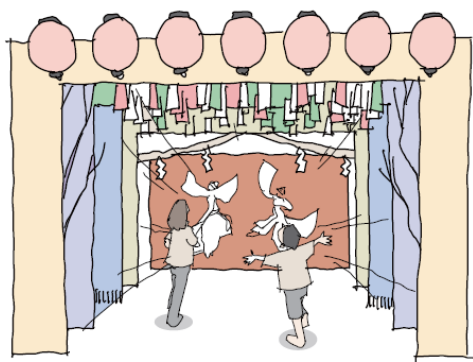
施設規模については、検討委員会では特に議論をされていないが、浜田市民が誇れるような施設という意見もあり、他都市の事例なども参考にしながら、望まれていると思われる基本案を整理した。

なお、本基本構想においては、具体的な展示素材や手法及び収容規模が明確になっていないことから、一つの目安として規模算定を行った。算定にあたっては、要求諸室の形状や規模などを考慮し、検討に適した 40 m² (5m×8m) を基本原単位として想定を行った。

1) 展示ゾーン

(1) 常設展示室(スポット展示コーナーを含む)

展示については、具体的な展示内容や手法及び機能などが明確になっていないことから、5つのステップを想定しており、平均して2単位程度の展示室を確保することとして、400 m²程度を想定する。



(2) 企画展示室

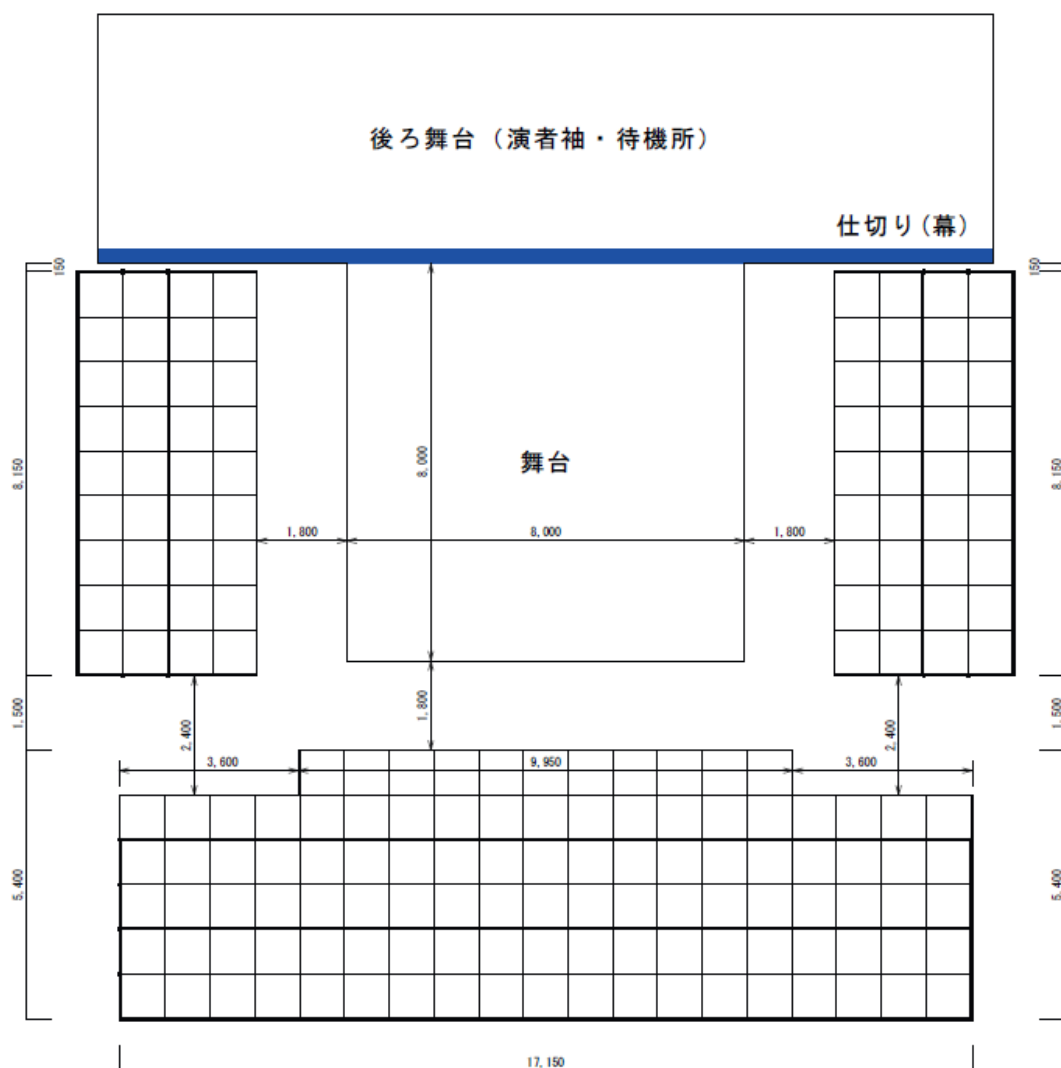
常設展示室の1ステップ分を確保するものとし、80 m²程度を想定する。

2) 交流ゾーン

(1) 舞殿(ホール)

基本的には現在行われている定期公演にも対応できる施設を想定する。基本構想では神社で舞っている雰囲気を大切にすることとされている。三宮神社の公演ではコロナ前の時期でも最大でも 150 人程度であったが、それ以上の需要はあると想定し、200 人収容を一つの目安とする。

稼働機敷席の配置を想定し、概ね $20\text{m} \times 20\text{m} = 400\text{ m}^2$ が必要と想定する。



(2) 多目的室

50 人程度のガイダンスなどに対応できるスペースとして、2 単位 (80 m^2 : 1 人当たり 1.6 m^2 /人) を確保する。

(3) ホワイエ

舞殿などへの入場にあたり、休憩スペースや待機スペースとなる空間として、ホールの 20% 程度を見込むものとする。

3) 情報発信ゾーン

(1) 情報発信スペース

浜田市内に散在する石見神楽に関する情報などが掲載された、パンフレットや案内板（デジタルサイネージ等）をおいたりするスペースとして、40 m²を確保する。

(2) ミュージアムショップ

石見神楽に関する各種のグッズを販売する物販スペースとして、40 m²を確保する。

4) 管理事務・調査研究ゾーン

管理事務ゾーンでは、受付、事務室、館長室、学芸員室、職員更衣室、職員休憩室及び調査研究室などを確保するものとし、全体で160 m²程度を想定する。

5) 収蔵ゾーン

収蔵庫は、常設展示室と同規模を確保しておくものとする。今後収蔵品などの調査結果をもとに、最終的な規模を設定する必要がある。

また、企画展示や収蔵品の入出にあたり、荷解き室や燻蒸・補修室も必要と想定されることから、併せて40 m²程度確保する。

6) エントランスホール

エントランスホールは利用者の集散の場となるところであり、2単位の80 m²程度は必要と想定している。

7) 廊下及び便益施設など

建築物としては、上記の主要諸室（空間）に加え、廊下や階段、トイレや機械室、倉庫などが必要になるが、施設の性格上少し余裕を持たせ、主要諸室（空間）面積の40%を見込むものとする。

上記の想定面積を取りまとめると、次のように概ね2,600 m²の施設になると見込まれる。

ここで示した規模は、検討委員会での意向を反映したものと考えているが、具体的な数値を提示し議論していないので、過不足の検証はできていない。

ゾーン	室名	基本案	
		面積 (㎡)	備考・根拠
展示ゾーン	常設展示室	340	展示室はスポット展示コーナーを含め400㎡程度を想定
	スポット展示等	60	
	企画展示室	80	
交流ゾーン	舞殿	400	1.2㎡/席程度で算定。200席程度を想定 $200 \times 1.2 = 240\text{㎡}$ 舞殿＋その他部分で160㎡程度
	多目的室	80	1人当たり1.6㎡程度で想定（50人）
	ホワイエ	80	
情報発信ゾーン	情報発信スペース	40	
	ミュージアムショップ	40	
管理事務ゾーン 調査研究ゾーン	事務室	40	
	受付	20	
	館長室	20	
	学芸員室	20	
	職員休憩室	20	
	職員更衣室	20	
	調査研究室	20	
収蔵ゾーン	収蔵庫	400	常設展示室と同程度を想定
	荷解き室	20	
	燻蒸・補修室	20	
エントランスホール		80	
合計		1,800	
廊下係数（概ね40%程度）		800	廊下係数により、廊下・階段・トイレ・機械室等の面積を算定
総合計		2,600	

※上記の想定面積は、文部科学省においてかつて定められていた「公立博物館の設置及び運営に関する基準」の面積規模（市町村においては 2,000 ㎡）も参考に設定している。

1-1-2. 概算工事費

概算工事費としては、過去の事例等を参考に単位面積当たりの整備単価を想定し、建築物の想定面積や展示面積を乗じて、概算事業費を算出した。

加えて、舞殿の整備にあたっては、舞台の演出照明や音響などの特殊機材も必要と想定されることから、それらの費用も加算し、概ね 31 億円の工事費になると想定する。

項目	基本案	
	概算金額 (千円)	適用
建築工事費	2,366,000	2600㎡×910千円 (過去事例を参照)
展示工事費	400,000	400㎡×1,000千円 (過去事例を参照)
舞殿ステージ等	25,000	可動式のステージや栈敷席を想定
舞台音響・照明	50,000	
小計	2,841,000	
消費税	284,100	
合計	3,125,100	

なお、設置場所が未定であることから、付帯する駐車場や外構整備に関する費用や給排水設備の引込に関する経費は含んでいない。

また、過去の事例をもとに概ね現在価格を想定したものであり、今後の物価変動、展示内容や手法、素材などの設定により、金額は変動する。

【建築工事費単価算定 参考資料】

建築工事については、陸前高田市立博物館を参照に建築工事の単価を算定した。

参照施設については、HP 公開情報を基に、近年建築された延床面積 2,600 m²前後の博物館等の事例から選定した。

事例名：陸前高田市立博物館

概要：RC 造、2800 m²、令和 3 年 7 月竣工

事業費：建築工事 19.05 億（展示は別途）

① m²単価：68.04 万円/m²（19.05 億/2800 m²）

② 建設デフレータ及び今後の物価上昇（1.33）を乗じると、

$68.04 \times 1.33 = 90.49$ 万円/m² ⇒ 91 万円/m²

なお、現時点で建築物の階数や構造、素材のグレードも未定であり、あくまで一つの目安として設置した数値である。



【展示工事費単価算定 参考資料】

展示に関する工事費単価としては、類似施設をベースに 1,000 千円/m²程度を想定した。

現時点では施設の展示内容や手法は複数考えられることから、地域の文化や歴史を伝える施設のうち、貴重な資料を保護するための展示ケースが導入されている施設、資料が露出で展示されている施設、映像・デジタル展示や体験展示が中心の施設など、様々な方向性の施設を参考としている。内容によっては 800 千円/m²程度でもある程度の整備は可能と考えられる。

1-1-3. 縮小案の検討

前項で示した規模や工事費は、検討委員会での意見を反映させたものと考えているが、財政事情を考慮し、縮小案も併せて検討した。

展示室や舞殿などの主要施設を中心に規模を約 75%程度にした機能圧縮案、50%程度にした最低限機能案を設定した。

ゾーン	室名	基本案		機能圧縮案（概ね75%）		最低限機能案（概ね50%）	
		面積 (㎡)	備考・根拠	面積 (㎡)	備考・根拠	面積 (㎡)	備考・根拠
展示ゾーン	常設展示室	340	展示室はスポット展示コーナーを含め400㎡程度を想定	260	展示室はスポット展示コーナーを含め75%程度に圧縮	200	基本案の50%に圧縮
	スポット展示等	60		40		0	
	企画展示室	80		60	面積を圧縮	0	廃止
交流ゾーン	舞殿	400	1.2㎡/席程度で算定。 200席程度を想定 200×1.2=240㎡ 舞殿＋その他部分で160㎡程度	300	1.2㎡/席程度で算定。 150席程度を想定 150×1.2=180㎡ 舞殿＋その他部分で120㎡程度	240	1.2㎡/席程度で算定。 100席程度を想定 100×1.2=120㎡ 舞殿＋その他部分で120㎡程度
	多目的室	80	1人当たり1.6㎡程度で想定 (50人)	40	1人当たり1.6㎡程度で想定 (25人)	0	廃止
	ホワイエ	80		60	縮小	40	最小化
情報発信ゾーン	情報発信スペース	40		30	30㎡(75%)に縮小		
	ミュージアムショップ	40		30	30㎡(75%)に縮小	40	ミュージアムショップと情報発信スペースを統合して、40㎡とする
管理事務ゾーン 調査研究ゾーン	事務室	40		40		30	30㎡に縮小
	受付	20		15	規模縮小	10	規模縮小
	館長室	20		0	事務室に統合	0	事務室に統合
	学芸員室	20		0	事務室に統合	0	事務室に統合
	職員休憩室	20		20		20	統合して20㎡程度とする
	職員更衣室	20		20			統合して20㎡程度とする
	調査研究室	20		20		0	廃止。 調査研究室は外部に設置
収蔵ゾーン	収蔵庫	400	常設展示室と同程度を想定	300	常設展示室と同程度を想定	200	常設展示室と同程度を想定
	荷解き室	20		20		20	
	燻蒸・補修室	20		20		20	
エントランスホール		80		60	60㎡に縮小	40	40㎡に縮小
合計		1,800		1,335		860	
廊下係数（概ね40%程度）		800	廊下係数により、廊下・階段・トイレ・機械室等の面積を算定	565	廊下係数により、廊下・階段・トイレ・機械室等の面積を算定	440	廊下係数により、廊下・階段・トイレ・機械室等の面積を算定
総合計		2,600		1,900		1,300	

工事費は機能圧縮案で約 23 億円、最低限機能案で約 15 億円になると想定される。

項目	基本案		機能圧縮案（概ね75%）		最低限機能案（概ね50%）	
	概算金額 （千円）	適用	概算金額 （千円）	適用	概算金額 （千円）	適用
建築工事費	2,366,000	2600㎡×910千円 （過去事例を参照）	1,729,000	1900㎡×910千円 （過去事例を参照）	1,183,000	1300㎡×910千円 （過去事例を参照）
展示工事費	400,000	400㎡×1,000千円 （過去事例を参照）	270,000	300㎡×900千円 （過去事例を参照）	160,000	200㎡×800千円 （過去事例を参照）
舞殿ステージ等	25,000	可動式のステージや 栈敷席を想定	21,000	可動式のステージや 栈敷席を想定	18,000	可動式のステージや 栈敷席を想定
舞台音響・照明	50,000		43,000		38,000	
小計	2,841,000		2,063,000		1,399,000	
消費税	284,100		206,300		139,900	
合計	3,125,100		2,269,300		1,538,900	

1-1-4. 類似施設の情報収集

1) 展示・体験の手法などの参考事例

無形文化財の伝承、地域観光への寄与、歴史展示、体験手法などに類似ポイントがある施設として、以下の施設を参考事例として紹介する。

参考事例

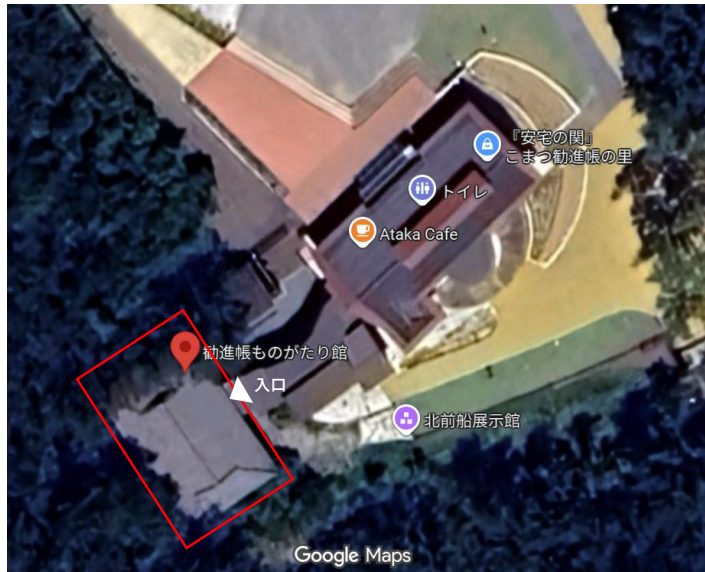
施設名	所在地	開館	参考とする点
勸進帳ものがたり館	石川県 小松市	2020 年 リニューアル	・無形文化財の伝承、広報、観光促進 ・導入展示のイメージ ・AR によるなりきり体験 ・演目や小道具などの用具などの紹介等
東灘だんじりミュージアム	兵庫県 神戸市	2024 年 リニューアル	・無形文化財の伝承、広報、観光促進 ・展示の構成（出会う・体験・学ぶ） ・体験型シアター（疑似体験） ・太鼓の体験ゲーム（楽しむ）等
ふじさんミュージアム	山梨県 富士市	2015 年 リニューアル	・導入展示のイメージ ・VR シアター等
熊本城ミュージアム わくわく座	熊本県 熊本市	2011 年	・観光案内 ・VR 映像シアター ・なりきり体験、甲冑体験 ・クイズで学ぶ等
湯本豪一記念日本妖怪博物館	広島県 三次市	2019 年	・サイネージによる図鑑（演目や社中紹介） ・デジタルデザイン（楽しみ）等
筆の里工房	広島県 熊野町	1994 年	・実演工房や体験工房 ・ギャラリーホール ・セレクトショップ等

勸進帳ものがたり館

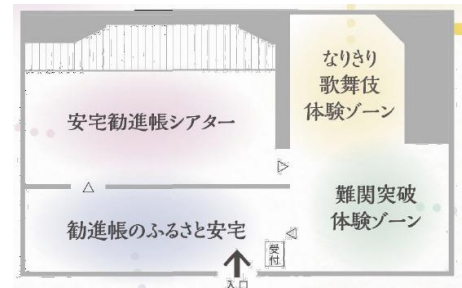
- 類似ポイント
 - ・無形文化の伝承
 - ・地域観光への寄与

・概要

歌舞伎の魅力と、義経一行の“安宅あたかの難関突破”を描いた演目「勸進帳」のロマンを伝え、「歌舞伎のまち・小松」のブランドを発信する観光集客拠点。



建物の航空写真（GoogleMapsより）



フロアマップ（パンフレットより抜粋）

- ・所在地：石川県小松市
- ・開館：2020年リニューアル
- ・機能：観光案内
- ・延床面積：313㎡
- ・展示面積：227㎡
（ものがたり館＋曳舟展示室）

勸進帳ものがたり館



「勸進帳のふるさと安宅」を伝える導入展示
（歴史・衣装展示）



歌舞伎の舞台を模した安宅勸進帳シアター
（映像展示・定員30名程度）



ARによる隈取のなりきり体験（フोटスポット）



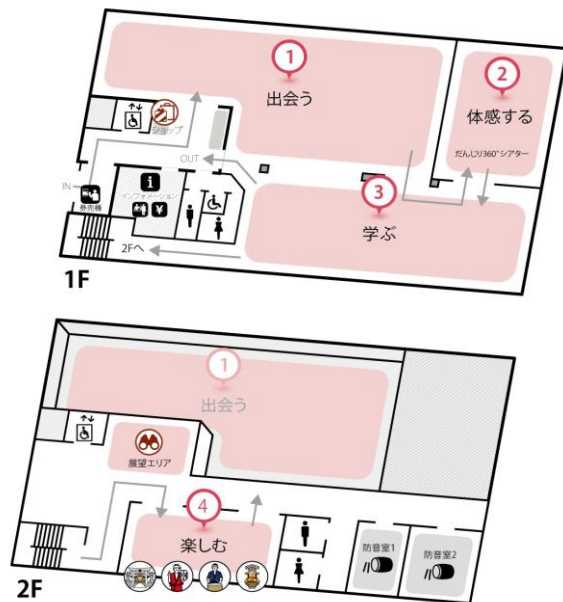
代表的な演目紹介（模型・実物・小道具・演目広告など展示）

東灘だんじりミュージアム

- 類似ポイント
- ・無形文化の伝承
- ・地域観光への寄与

・概要

東灘だんじり5地区の氏神社やだんじりを紹介し、その文化を受け継ぎ、実際のだんじりに参加してみたい体感型ミュージアム。



外観・入口

3Fには、貸室もあり。
 ・コミュニティホール (360㎡)
 ・会議室 (180㎡)
 2F防音室は地域での鳴り物の練習として貸出
 ・防音室1 (63.91㎡)
 ・防音室2 (31.36㎡)

- ・所在地 : 兵庫県神戸市
- ・開館 : 2024年リニューアル
- ・機能 : 観光案内
- ・延床面積 : 5,133㎡
- ・展示面積 : 1,238㎡

東灘だんじりミュージアム



実物展示と地域ごとのだんじり紹介する「出会う」コーナー



シアターでだんじりに乗り宮入を疑似体感できる「体感する」コーナー



製作工程や道具について知る「学ぶ」コーナー



太鼓やはっぴの衣装体験ができる「楽しむ」コーナー

ふじさんミュージアム

- 類似ポイント
- ・無形文化の伝承
- ・地域観光への寄与
- ・歴史展示

・概要

昭和54年に富士吉田市郷土資料館として開館後、幾度かの増改築を経て、2015年に「ふじさんミュージアム」へ。富士山が世界文化遺産に登録されたのをきっかけに、幅広い利用者に対応するため「富士信仰」に関する資料をメインに、富士山について誰もが気軽に楽しく学べる施設。



フロアマップ (HPより抜粋)

- ・所在地 : 山梨県富士市
- ・開館 : 2015年リニューアル
2023年VRシアター開設
- ・機能 : 歴史
- ・延床面積 : 4,000㎡
- ・展示面積 : 1,115㎡ (うちVRシアター115㎡)

ふじさんミュージアム



富士の歴史や信仰について紹介 (歴史)



「富士山の四季や富士山にまつわるトピックを紹介 (映像・模型)



貴重な富士信仰資料の展示 (歴史・実物・ケース展示)



高精細な映像で富士登山と美しい富士山の絶景を体感する
VRシアター (映像展示・定員20名程度)

- 類似ポイント
- ・地域観光への寄与
- ・歴史体験展示

熊本城ミュージアム わくわく座（桜の馬場観光交流施設）

概要

熊本城の周辺観光の基地として観光客の滞在を増やし周遊へと誘うことや、熊本市の歴史と文化をエンタメ性高く魅力的に紹介するための施設。



- ・所在地 : 熊本県熊本市
- ・開館 : 2011年
- ・機能 : 観光案内
- ・延床面積 : 3,301㎡
- ・展示面積 : 1,293㎡

わくわく座と周辺施設（施設HPより）

熊本城ミュージアム わくわく座（桜の馬場観光交流施設）

見て 聞いて 触って

1F 熊本城や熊本を学んで体験

「熊本城被災・復旧プロジェクト」などの新しいコンテンツも登場。熊本城の魅力も多彩に発信します。

1 熊本城被災・復旧プロジェクト

音と映像を使って、熊本城の立体模型に石垣や瓦の損傷、復旧の様子を再現。また復旧イメージもご覧いただけます。

2 熊本城定点ライブカメラ

9台のカメラを設置し、わくわく座館内のモニターでリアルタイムに復旧状況を把握することができます。

3 熊本城被災映像

「被災直後の熊本城」と「天守閣・本丸御殿・宇土櫓内部」の3本の映像を繰り返し上映しています。

4 石垣積み体験

武家屋敷の石垣を積み重ね、熊本城の石垣作りを体験できるコーナーです。

5 清正公と背比べしよう

加藤清正公と一緒に背比べをしながら記念撮影ができます。清正公の年表も展示しています。

6 駕籠体験（移動交代）

原寸大の駕籠に乗って、当時のお堀様の乗り心地や大きさを体験してください。

7 なりきり体験

豪華な衣装を身に付けて熊本城のお堀様・お堀渡り橋を歩きましょう。

8 馬術体験

お堀さまも乗っていた？ 模型の馬にまたがって「いざ出陣！」

9 甲冑体験

本物そっくりの再現した、甲冑を身に付けることができます。

10 西南戦争 立体紙芝居

明治時代の戦場を切り抜いた自動大型紙芝居装置で、西南戦争のエピソードを見逃さず3Dに再現します。

11 西南戦争 コーナー

クイズやゲームで西南戦争を楽しく学んだり、政府軍や義勇軍に衣装を着て撮影したりすることができます。

12 歴代有名対局クイズ

加藤清正公、宮本武蔵、豊後守など、熊本ゆかりの有名人物とクイズ対決を楽しめます。

13 寸劇

「義経の清正」「肥後守伝」「カメラは見た！ 明治の熊本」などの演目による愉快なエンターテインメントです。

14 熊本城VR完全版！

江戶時代、被災前の熊本城の姿を全範囲バーチャルリアリティ映像で見ることができます。

2F ものがたり御殿

熊本城の歴史をドラマ仕立てで迫力ある映像やお堀様で熊本城から広がる歴史ハイライトを紹介します。時空を越えたドラマをお楽しみください。

寸劇&VRコーナー

熊本城ミュージアム わくわく座

熊本城の歴史を学んで体験

「熊本城被災・復旧プロジェクト」などの新しいコンテンツも登場。熊本城の魅力も多彩に発信します。

1 熊本城被災・復旧プロジェクト

音と映像を使って、熊本城の立体模型に石垣や瓦の損傷、復旧の様子を再現。また復旧イメージもご覧いただけます。

2 熊本城定点ライブカメラ

9台のカメラを設置し、わくわく座館内のモニターでリアルタイムに復旧状況を把握することができます。

3 熊本城被災映像

「被災直後の熊本城」と「天守閣・本丸御殿・宇土櫓内部」の3本の映像を繰り返し上映しています。

4 石垣積み体験

武家屋敷の石垣を積み重ね、熊本城の石垣作りを体験できるコーナーです。

5 清正公と背比べしよう

加藤清正公と一緒に背比べをしながら記念撮影ができます。清正公の年表も展示しています。

6 駕籠体験（移動交代）

原寸大の駕籠に乗って、当時のお堀様の乗り心地や大きさを体験してください。

7 なりきり体験

豪華な衣装を身に付けて熊本城のお堀様・お堀渡り橋を歩きましょう。

8 馬術体験

お堀さまも乗っていた？ 模型の馬にまたがって「いざ出陣！」

9 甲冑体験

本物そっくりの再現した、甲冑を身に付けることができます。

10 西南戦争 立体紙芝居

明治時代の戦場を切り抜いた自動大型紙芝居装置で、西南戦争のエピソードを見逃さず3Dに再現します。

11 西南戦争 コーナー

クイズやゲームで西南戦争を楽しく学んだり、政府軍や義勇軍に衣装を着て撮影したりすることができます。

12 歴代有名対局クイズ

加藤清正公、宮本武蔵、豊後守など、熊本ゆかりの有名人物とクイズ対決を楽しめます。

13 寸劇

「義経の清正」「肥後守伝」「カメラは見た！ 明治の熊本」などの演目による愉快なエンターテインメントです。

14 熊本城VR完全版！

江戶時代、被災前の熊本城の姿を全範囲バーチャルリアリティ映像で見ることができます。

2F ものがたり御殿

熊本城の歴史をドラマ仕立てで迫力ある映像やお堀様で熊本城から広がる歴史ハイライトを紹介します。時空を越えたドラマをお楽しみください。

寸劇&VRコーナー

熊本城ミュージアム わくわく座（桜の馬場観光交流施設）



熊本城被災・復旧プロジェクションマッピング（歴史・映像・模型）



「ものがたり御殿」熊本城VR映像シアター
（映像展示・定員120名）



なりきり体験



クイズで学ぶ西南戦争（歴史・クイズ）

湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）

- 類似ポイント
 - ・地域観光への寄与
 - ・デジタル技術の活用



常設展示室



常設展示室



サイネージによるデジタル妖怪図鑑
©チームラゴ



描いたオリジナル妖怪が壁面に映し出される
デジタル妖怪お絵描き
©チームラゴ

- ・所在地：広島県三次市
- ・分野：人文
- ・設立主体：三次市
- ・開館年月：2019年（平成31年）4月

※面積については下記をご参照ください
「令和5年三次市三次地区拠点施設指定管理者募集要項」より

名称	概要
湯本豪一記念日本妖怪博物館 （三次もののけミュージアム）	① 用途 博物館 ② 構造 鉄骨造2階建 ③ 延床面積 1,132㎡（1階737㎡、2階395㎡） ④ 施設概要 〔1階〕 ・展示室462㎡ ・エントランスホール、ミュージアムショップ80㎡ ・エレベーターホール及び荷捌場41㎡ ・事務室27㎡ ・その他機械室、トイレ等127㎡ 〔2階〕 ・調査・研究室52㎡ ・收藏庫171㎡ ・会議室57㎡ ・館長室25㎡ ・その他エレベーターホール、更衣室、トイレ、湯沸室等90㎡
三次地区文化・観光まちづくり 交流館	① 用途 交流施設 ② 構造 鉄骨造平屋 ③ 延床面積 571㎡ ④ 施設概要 ・体験機能室（愛称：平太郎サロン）83㎡ ・地域交流室41㎡ ・ミーティング室11㎡ ・売店、情報提供スペース107㎡ ・事務室23㎡

※フロアマップ（館のHPより）

博物館フロア



エントランスホール

- デジタル妖怪大図鑑

常設展示室「日本の妖怪」

常設展示室「稲生物怪録」

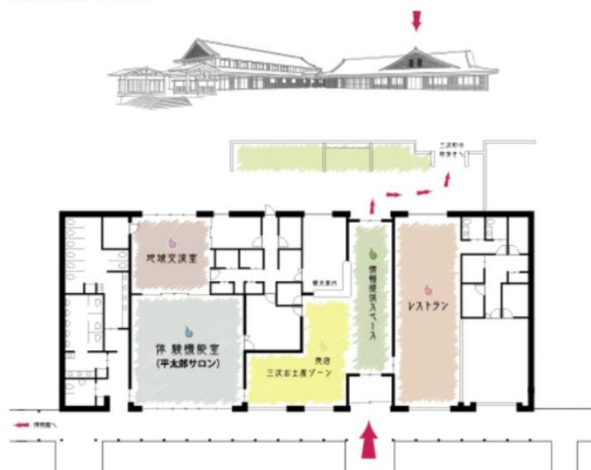
企画展示室

チームラボ妖怪遊園地

- お絵かき妖怪とピープル
- 妖怪が住まうテーブル
- 妖怪力メロ

※フロアマップ（館のHPより）

交流館フロア



地域交流室

出会い、繋がり、交流する

ラウンジ風の造りで、地域内外の人がふらっと来てくつろいで貰える交流の場。地域の文化財を使ってミニギャラリーを開いたり、地域の打合せの場としても使えます。

体験機能室「平太郎サロン」

見る・聞く・触る・作る

スクリーンとプロジェクターを使って、文化的な講座や、ワークショップなどの制作体験等ができます。

売店（三次お土産ゾーン）

三次の宝を紹介

三次町内のお土産の販売とともに、作っているお店の紹介、そこから三次町へのまち歩きへ。三次市内のお土産の他、妖怪関係のお土産を販売。

情報提供スペース

三次の町の出入口

地域情報や観光情報を提供、三次地区の歴史概要を映像やパネルで紹介します。町歩き用のガイドパンフレットでまちの商店や展示施設もご案内します。

はなうた食堂

腹が減っては三次は歩けぬ

お腹を満たして、三次の町を楽しむ活力に！

■筆の里工房

- 類似ポイント
 - ・地域観光への寄与
 - ・デジタル技術の活用



ギャラリーホール



セレクトショップ（製造会社の店舗）



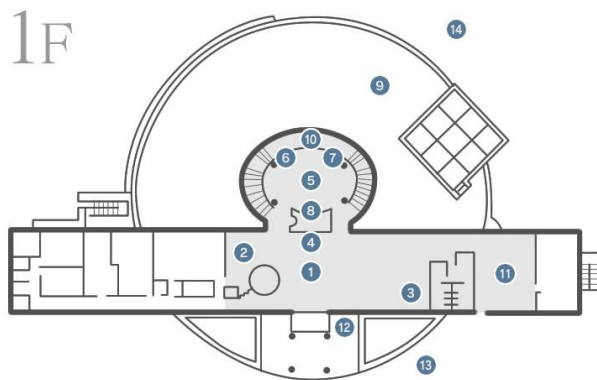
筆司の家（筆づくり実演）



筆のアトリエ
（各種教室やワークショップの開催等）

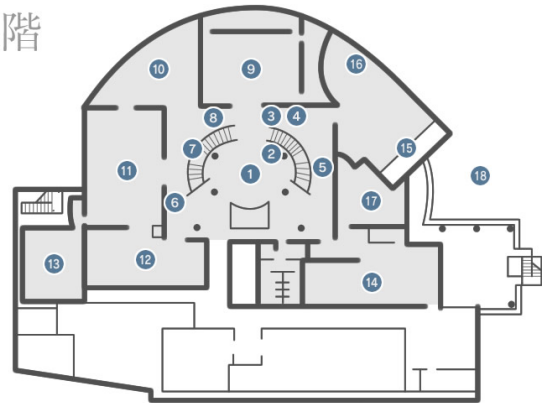
- ・所在地：広島県熊野町
- ・分野：人文
- ・設立主体：熊野町
- ・開館年月：1994年（平成6年）9月

※フロアマップ（館のHPより）



- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. エントランスホール | 8. インフォメーションボード |
| 2. ミュージアムショップ | 9. テラス |
| 3. 熊野筆セレクトショップ本店 | 10. 休憩コーナー |
| 4. 設立趣意書 | 11. Cafe熊（カフェテラス） |
| 5. 交流ラウンジ | 12. 「宇宙へ」モニュメント |
| 6. 伝統工芸士筆展示ケース | 13. ぬくもりの園 |
| 7. 熊野筆紹介ケース | 14. 水辺のギャラリー・書の石碑 |

地階



- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1. 世界一の大筆 | 7. くらしと筆 | 14. 筆のアトリエ |
| 2. 筆の宇宙 | 8. 書・画・化粧の筆 | 15. 筆司の家 |
| 3. 筆の象形文字「聿」 | 9. ギャラリーホール | 16. 美文字工房 |
| 4. 文房四宝コーナー | 10. ギャラリー I | 17. 図書室 |
| 5. 体験コーナー | 11. ギャラリー II | 18. 茶室（鐘聲庵） |
| 6. 収蔵品展示 | 12. ギャラリー III | |
| | 13. ギャラリー IV | |

2) 規模感に関する参考事例

今回提示した参考規模と同程度（延床面積 1300～2600 m²程度）の記念館や博物館などの事例を紹介する。

施設名	所在地	開館	機能	延床面積 (m ²)	展示面積 (m ²)	備考
二本松市歴史観光施設 にほんまつ城報館	福島県二本松市	2022年	文化観光	1,749	370	
陸前高田市立博物館	岩手県陸前高田市	2023年	文化観光	2,800	997	展示は常設のみ
下関市立歴史博物館	山口県下関市	2016年	歴史文化	1,500	311	展示は常設のみ
湯本豪一記念日本妖怪博物館 (三次もののけミュージアム)	広島県三次市	2019年	人文	1,703	462	交流館 (571m ² を含む)

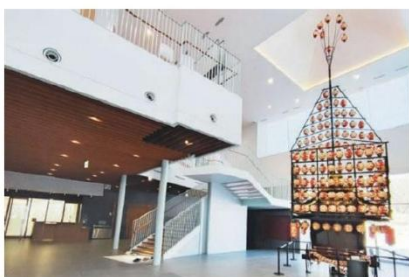
二本松市歴史観光施設 にほんまつ城報館



常設展示室



ガイドンス室（VR映像シアター）



お祭り広場（館HPより）



2階 観光情報ギャラリー

- ・所在地：福島県二本松市
- ・分野：文化観光PR施設
- ・設立主体：三次市
- ・開館年月：2022年（令和4年）4月
- ・延床面積：1,749m²
- ・展示面積：370m²（常設展示室）

※フロアマップ（「広報にほんまつ（No.198(令和4年5月号)）」より）



陸前高田市立博物館



常設展示室（大地の成り立ち）



常設展示室（貝たちの部屋）



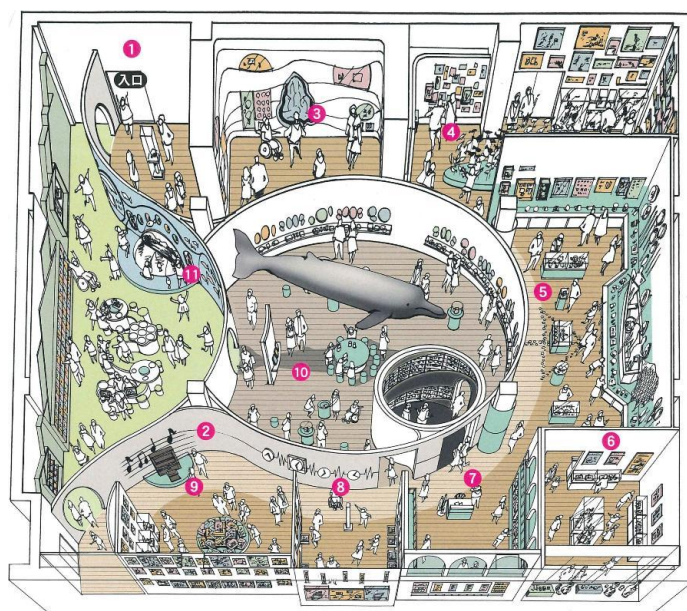
常設展示室（発見の部屋）

- ・所在地：岩手県陸前高田市
- ・分野：文化観光
- ・設立主体：陸前高田市
- ・開館年月：2023年（令和5年）11月
- ・延床面積：2,800㎡
- ・展示面積：997㎡（常設展示室）

平面図



（1階）



（常設展示室）

下関市立博物館



展示室入口

- ・所在地：山口県下関市
- ・分野：歴史文化
- ・設立主体：下関市
- ・開館年月：2016年（平成28年）11月



常設展示室



外観

※フロアマップ（館のHPより）



3) 神楽に関する参考事例

神楽に関する資料館や舞殿に関する事例としては、以下の4施設を事例として紹介する。

● 神楽会館（大分県豊後大野市）

公民館と一体的な施設で、288席（480㎡）の多目的ホールがある。多目的ホールでは年間125日、約7,200人が利用。可動席ではあるが、席を収納した状態は、上記のうち9回、450人程度で吹奏楽などでの利用。御嶽神楽をはじめとする地域の神楽公演は年間12回で、約1,840人が観覧。道の駅や清川支所に隣接した場所にある。また、ホールのホワイエを活用して神楽面などが展示してある。



神楽会館の外観



神楽上演の様子



神楽会館の客席（可動式）



県道沿いのモニュメント



ホワイエの展示



ホワイエの展示

● **吉備高原神楽民族資料館（岡山県井原市）**

祖先から伝えられてきた備中神楽をできるだけ本来の姿に近い形で後世に伝えてゆくため、平成2年7月に「中世夢が原」の入口に整備された施設。ここには、昭和初期の神楽面、陣羽織などの衣装をはじめ本格的な神殿（こうどの）を展示しており、「民俗文化財備中神楽伝承研究会」の活動拠点として使われている。

資料館の入場者数は定かではないが、神殿では年間8回の公演で約300人が鑑賞、子ども神楽等の利用で60回、1,000人の利用がある。隣接する中世夢が原のお祭り広場で、年1回1,000人規模の神楽大会が開催されている。



吉備高原神楽民族資料館の外観



資料館内の神殿



資料館内の展示スペース



中世夢が原内の三斎市

中世夢が原は、鎌倉から室町時代にかけての吉備高原一帯に見られたむらのようすを絵巻物や発掘資料をもとに、時代考証により再現したもので、園内は実際に当時と同じ工法で家建て、当時使っていた道具や民具をそろえ(作り)、中世の営みをそのままに再現している。藍染めや竹とんぼづくりなどの体験もできる。年間利用者数は約12,500人。

● 神楽門前湯治村（広島県安芸高田市）

天然温泉をはじめ、格子造りの旅籠屋や湯治宿、お食事処、茶店などが通りに軒を連ね、幼い頃に舞い戻ったような街並みで構成されている。その一角に神楽観劇のための専門のドームや寄席の雰囲気を楽しめるかむくら座や神楽について学んだり、神楽グッズが購入できる神楽資料館がある。また、神楽面の絵付け体験などを行うこともできる神楽体験館・和楽がある。

年間利用者数：97,500 人



神楽ドーム



かむくら座



街並みの様子



神楽資料館内の展示



神楽資料館内の展示



神楽体験館・和楽

● 高千穂神社（宮崎県高千穂町）

高千穂に伝承される夜神楽は、「高千穂の夜神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。古くからこの地方に伝承され、秋の実りへの感謝と翌年の豊穰を祈願し、11月中旬から2月上旬にかけて三十三番の神楽があちこちの神楽宿で奉納される。

高千穂神社境内の神楽殿では、毎晩 20 時より 1 時間、三十三番の神楽の中から代表的な 4 番「手力雄の舞」「鉦女の舞」「戸取の舞」「御神体の舞」を各集落の神楽の舞手が交代で奉納している。拝観料は 1,000 円/人で、年間概ね 4 万人（概ね 100 人/日：200 人定員）が鑑賞している。



神楽殿(外観)



神楽殿(内観)



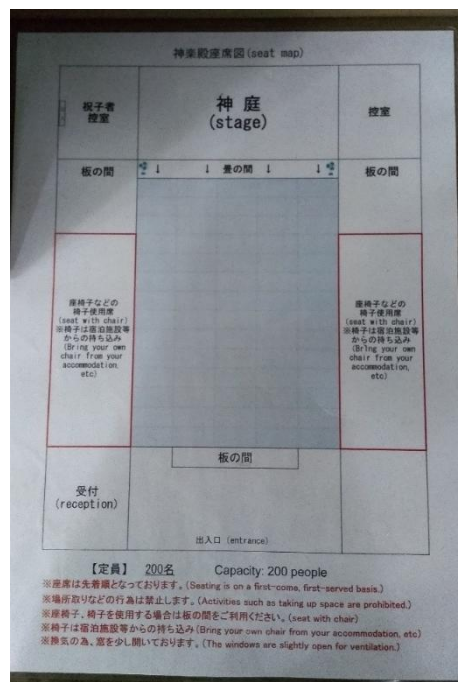
鑑賞案内



夜神楽公演



舞台



神楽殿座席図

1-2. 運営方式・運営体制の検討

1-2-1. 事業運営方式に関する参考資料

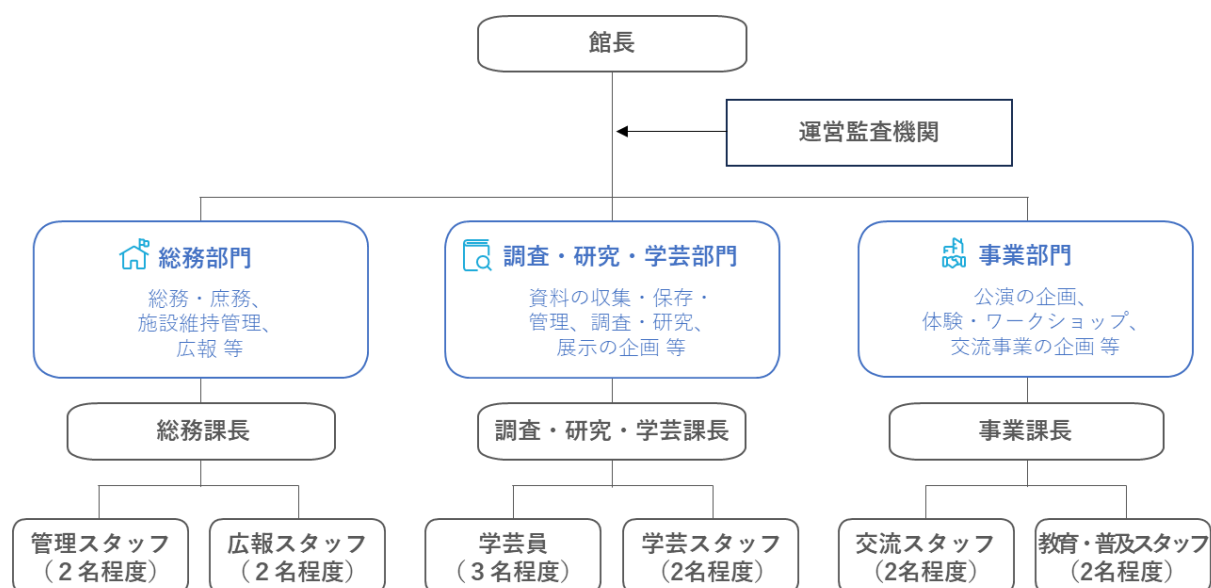
事業運営方式の比較は以下のとおりである。

事業方式		概要	1. 公設公営方式	2. 公設民営方式 (業務委託方式)	3. 公設民営方式 (指定管理者制度)	4. PFI方式
			従来型 市が公的資金をもとに施設の設計・建設をおこない所有し、維持管理・運営をおこなう方式	運営委託型 市が公的資金をもとに施設の設計・建設をおこない所有し、維持管理・運営を民間に委託する方式	指定管理型 市が公的資金をもとに施設の設計・建設をおこない所有し、維持管理・運営を民間が実施する方式	PFI事業 民間が施設の設計・建設をおこない、維持管理・運営を民間が実施する方式
市との役民割 間分事 担業者	基本計画・設計		市	市	市	市
	実施設計		市	市	市	民間事業者(または市)
	建設		市	市	市	民間事業者(SPC)
	維持管理		市	民間事業者(または市)	民間事業者	民間事業者(SPC)
	運営		市	民間事業者(または市)	民間事業者	民間事業者(SPC)
	建設資金の調達		市	市	市	民間事業者(SPC)
施設の所有			市	市	市	市(BTO)又はSPC(BOT)
責任の所在			市	維持管理・運営は市に管理責任	維持管理・運営は市に監督責任	契約により市と民間で分担
事業	設計・建設	・設計段階から民間のノウハウを活用した提案を組み込まない。	・設計段階から民間のノウハウを活用した提案を組み込まない。	・設計段階から民間のノウハウを活用した提案を組み込まない。	・民間事業者の発注で設計・建設を行なった場合、民間のノウハウや創意工夫を生かした施設を建設できる。	
	運営・管理	・民間による提案の余地がないため、運営業務においてサービスが画一的になりがちである。配置される職員に専門性の高い運営がもたらられ、また人事異動も多いことから、多様化するニーズに対する対応が困難。	・民間のノウハウによる運営・維持管理業務の実施が可能となり効率性を期待することができる。民間の専門的ノウハウを持ったスタッフ配置が期待できる。(契約条件とする必要がある) ・受託業者が変わる際(1年毎の可能性あり)、ノウハウの蓄積や事業継続性について懸念される。	・民間のノウハウによる運営・維持管理業務の実施が可能となり効率性を期待することができる。 ・民間の専門的ノウハウを持ったスタッフ配置が期待できる。(契約条件とする必要がある) ・指定期間を3～5年と複数年にすることにより、民間にとって人件費などの見通しを立てやすい。	・民間事業者の資金、経営能力、技術的能力、施設の魅力づくりの創意工夫を活用し、効果的かつ効率的な公共サービス提供が期待できる。民間の専門的ノウハウを持ったスタッフ配置が期待できる。(契約条件とする必要がある) ・施設の所有を民間事業者とした場合、市の意向による運営システムの変更や施設の修繕等は難しくなる。(BOT)	
コスト	建設	・市の負担。予算化にあたり補助金の導入等の検討が必要。	・市の負担。予算化にあたり補助金の導入等の検討が必要。	・市の負担。予算化にあたり補助金の導入等の検討が必要。	・民間が資金調達することにより、市の支出が平準化される。 ・長期契約による物価上昇の検討が重要となる。	
	運営・管理	・市の負担。 ・運営管理コストの縮減は民間事業者のようには期待できない。	・維持管理費、業務委託費は市の負担。 ・民間企業の競争原理に基づく運営管理コストの縮減を期待できる。 ・業務を細かく分けて業務委託する場合、包括的に民間に任せる場合に比べ、コスト削減効果が限定的となる可能性がある。	・維持管理費、業務委託費は市の負担。 ・民間企業の競争原理に基づく運営管理コストの縮減を期待できる。	・民間事業者の業務範囲(維持管理、運営等)についてサービス購入料として市が負担する。 ・性能発注、一括発注、長期契約によりライフサイクルコストを削減することができる。 ・長期契約による人件費上昇の検討が重要となる。	
市民参加	設計時	・市民の意向を把握している市が施設の設計をするため、市民の意向が反映されやすい。	・市民の意向を把握している市が施設の設計をするため、市民の意向が反映されやすい。	・市民の意向を把握している市が施設の設計をするため、市民の意向が反映されやすい。	・民間事業者が施設の設計を行なう場合、市民の意向が反映されにくい。	
	運営時	・運営協議会を組織することができる。	・運営協議会を組織することができる。	・運営協議会を組織することができる。(契約条件とする必要がある)	・民間の経営が優先されるため、運営協議会を組織できない。(契約条件とすることはできるが、運営コストがアップする)	
民間の事業機会の創出		・全て公設公営で、民間の事業機会はない。	・従来、公共が行なってきた事業を民間事業者に委ねることにより、新たな事業機会を創出するとともに、新たな事業分野への算入、多様な事業者との連携などを通じた活性化を促す。	・従来、公共が行なってきた事業を民間事業者に委ねることにより、新たな事業機会を創出するとともに、新たな事業分野への算入、多様な事業者との連携などを通じた活性化を促す。	・従来、公共が行なってきた事業を民間事業者に委ねることにより、新たな事業機会を創出するとともに、新たな事業分野への算入、多様な事業者との連携などを通じた活性化を促す。	
建設スケジュール		・すべて市が推進するので、予定通り進めやすい。	・すべて市が推進するので、予定通り進めやすい。	・すべて市が推進するので、予定通り進めやすい。	・PFI法の手続きを遵守する必要があり、PFI導入の検討から民間の事業契約締結まで長期に亘る可能性がある。	
事例		・浜田市浜田城資料館 ・旭歴史民俗資料館 ・弥栄郷土資料展示室 ・三隅歴史民族資料館 など	※施設の受付、レンタサイクル貸出、貸しスペース管理など、一部の業務に限る	・浜田市浜田郷土資料館 ・浜田市世界こども美術館創作活動館 ・石中央文化ホール ・匠ギャラリー※県外 など	・鳥取県立美術館 など	

1-2-2. 博物館組織体制に関する参考資料

基本構想では規模感がまだ明確になっていないので人員の想定はしていないが、業務報告書で示している基本案程度の規模においては、館長以下、3部門に区分して管理運営するとなれば、概ね15～20名程度の管理体制になると想定される。

さらに、規模によっては、部門などの統合や担当スタッフ等の人員調整により、コンパクトな管理運営組織にしていくことも考えられる。



1-3. 浜田郷土資料館との複合化の検討

本基本構想においては、本拠点は、「石見神楽のすべてがわかり、観て感じることができる、浜田市民が誇れる拠点」として、より多くの市民や県内外からの来訪者が集い、石見神楽を身近に感じ、理解を深め、誇りを育み、文化を後世に伝承する場所となることが重要である。

こうした考えのもと、検討委員会では、郷土資料館その他の文化施設などとの複合施設とはせず、石見神楽に特化した拠点施設として整備することが望ましいと整理した。

今回の検討委員会の意向としては、「複合施設」にしないという結論であったが、「複合施設」の定義まで、十分に議論することができなかった。

「複合施設」にすべきではないという意見は、郷土資料館の一部に石見神楽コーナーがある程度の整備になって、石見神楽が埋没してしまうことに大きな懸念があったものと推測される。

しかし、石見神楽の歴史と郷土の歴史は切り離しては語れないものであり、連携して体験学習できることで、より理解が深まる側面があることも考えられる。

そこで、「複合施設」としてしまうのではなく、それぞれ専門的なエリアは別棟でしっかり建設したうえで、共有できる空間を集約するような「併設施設」にすることで、浜田市民が地域の誇りを効果的、効率的に醸成できると考えられる。

郷土資料館と石見神楽伝承拠点がそれぞれの独立性は維持されつつも、近接して併設されることのメリットとして、以下のような点があげられる。

- 多目的室（各種教室利用やガイダンス利用等）の共有または連携
- 企画展示室の共有または連携
- 専門職員などの情報交換や連携が容易（より効率的なサービスの提供）
- 総務部門の集約
- エントランスや休憩ゾーンなどの共有による効率化
- 多様な目的者が集約することで、ターゲットの幅が広がる

石見神楽伝承する施設としては、単独であるより、既に集客能力がある施設との一体整備や連携できる施設の集約立地により、幅広い層（石見神楽にあまり興味がない人等）に広報できる機会が増える

